



夕焼けの次の日は、どうして天気がよくなるの

西の空が晴れているので、ふつう、次の日は天気になるから

夕焼けが見られるときは、西の空は晴れています。日本付近の天気は、西の方から変わってきます。低気圧や高気圧、雨の区域などは、日本付近の上空をふいている西の風に乗って、東へ移動していきます。

西から、低気圧が近づいているときでも、雨が降り始めるまでには、1日近くかかります。それで、西の空が晴れていれば、次の日は晴れることになるので、夕焼けの次の日は天気よくなることが多いようです。

しかし、夕焼けでも、頭の上や西の空に、高い雲が広がっているときは、このような雲が、低気圧の前ぶれに現れることもあるので、次の日に天気が悪くなることもあります。

夕焼けが起こるわけ

太陽の光は、白っぽい色をしています。赤、だいだい、黄、緑、青、あい、むらさきの7色の光が、混ざりあっています。それは、プリズム(三角柱の厚いガラス)に太陽の光をあてると、7色の光に分かれることからわかります。

日がしずむころ、太陽の高さが低くなると、太陽の光が人の目に入るまでの、大気(空気)を通りぬけてくるきよりが長くなります。すると太陽の光が、大気中にある水蒸気やちりに、ぶつかることが多くなります。青い光などは、ほとんどが大気中に散乱してしましますが、赤い光は最後まで残って、わたしたちの目に入ってきます。太陽の赤い光が、空やまわりの雲を赤く染めるので、夕焼けが起こります。(監修・村山 貢司)

